

大多喜城分館におけるくずし字解読講座のあゆみ

高橋 覚

OHP からプレゼンソフトへ

くずし字解読を教えるという技術は、いまだ確立した手法が存在しない発展途上の段階にあります。

筆者自身どのようにくずし字の読み方を覚えたかという、学生時代に上級生と一対一で実物の古文書に向かい、読み合わせという作業をしながら一文字一文字読み方を教わったことを思い出します。事前に古文書を原稿用紙に書き写し、一文字一文字読み合わせて間違いを訂正したり、読めないまま空白になっている升を埋めたりしていくという手間のかかる学習法です。文字どおり資料相手の格闘技とでもいうべきもので手間はかかるのですが、字を覚えるのにはこの方法はかなり効果的で、数日もすると簡単な書状形式の文書などは読めるようになります。もっとも初心者なので歴史的用語、くせ字や異体字など継続して学習する必要があり、一人前にくずし字が読めるようになるにはさらに数年かかるのは言うまでもありません。

これを講座という形で多数の人を相手に初見の文書の読み方を教えるとなるとかなり難しく、極めてアナログな紙資料を用いる講義形式が主流でした。筆者は、これをなんとか視聴覚機材を使用したくずし字解読講座にしてみたいと思い、昭和の終わり頃からOHP（オーバーヘッドプロジェクター）を用いた講義方法を実施してきました。OHPという機材がもはや過去の遺物なので説明をくわえますと、透過光式のフィルムに文書の画像をカラーコピーし、スクリーンに投影する方式でした。スライドを用いる方法と同じですが、教材製作が比較的簡単なことと、明るい部屋でスクリーンに投影した文書の画像を一文字一文字説明することができる点が便利でした。

デジタル古文書講座

その後、パソコンの普及に伴ってプレゼンテーションソフトが充実し比較的使いやすくなったので、平成12年ころから、デジカメで文書を撮影し、画像をプロジェクターで投影する方法に進化しました。画像の加工が自由にでき、一文字単位や行単位で切り取ってスライドをつくりアニメーション機能などを多用して詳細な説明を加えるという講義方法になりました。画像の製作に凝ると際限なく時間がかかるので、今ではそれほど作り込まない方式になってきました。全国のくずし字解読講座にプレゼンソフトがどの程度利用されているかは調べたこともないですが、今でも少数派ではないかと思っています。紙資料と格闘しながら文書

解読を学んだ経験が邪魔をして、紙から離れられずデジタル化を阻んでいるのではないのでしょうか。

筆者が、千葉県立中央博物館大多喜城分館に最初に赴任したのは平成19年のことでした。その頃は古文書講座と呼んでいたこの事業を担当することになりました。最初の講義には大多喜町の市立てに関する文書を使い、アニメーション機能などを使って講義しました。平成21年度には、今も使用している「家中役替帳」を読み始めています。この資料は、文化11～13年にかけての大多喜藩の人事異動に関する記録です。大多喜藩では維新期の動乱で官軍に城を明け渡しているので資料の散佚が甚だしく、藩士個人に関する記録は極めて貴重で、残された資料の中では最も情報量の多いものの一つです。この資料を一年に20頁くらいの速度で講義しており、現在に至ります。その間プレゼンソフトの性能が向上し写真の加工が容易になったのですが、画面自体は次第にシンプルになってきています。文字を切り取ってばらばらに見せるより、文脈で読み解く方がわかりやすいことに気がついたからです。

くずし字講座への展開

平成30年度から講座の名称を「くずし字解読講座」と改めました。古文書とくずし字の違いはわかりにくいかもしれませんが、くずし字のほうが取り扱う材料の幅がより広がるということになります。古文書は狭義では古い手紙類に限定されますが、くずし字とすれば、崩して書いた資料であれば何でも取り扱うことができます。つまり、今後は仮名で書かれた文学作品も取り扱うことができるようになります。しかし、担当者の専門性にもよりますので、筆者の場合とりあえず館蔵資料の「後三年合戦絵巻」などを読み解いてみたいと考えております。絵巻物ならば、絵画描写の読み解きも楽しめるので、学習意欲が増すのではないかと思います。特にこの絵巻物の描写は残酷な場面が多いことで知られていますので、大人向けに限定しての開催となるでしょう。また、江戸時代の絵本類などもあるので、これからはテキスト選びには困らなくなります。

今後、デジタル技術を使って講師と学習者が1対1で対話できるような形式の授業に発展しないものかと期待しています。筆者自身が学生時代に経験した資料との格闘が解読技術の上達につながると思いますので、読み合わせ方式の授業形態をデジタル技術によって実現したいものと願っています。

(大多喜城分館)